

寺子屋みらい in 善宗寺

(東京都世田谷区)

貧困の克服に向け、社会の中で特に弱い立場にある子どもたちを支援し、その笑顔が広がるようにと2018年8月に宗派が開設した「子どもたちの笑顔のために募金」は、国内の子ども食堂や学習支援、児童養護施設、海外の子どもたちへの支援活動を行う団体で活用されている。その一つ、東京都世田谷区の善宗寺(西垣義孝住職)で行われている学習支援活動「寺子屋みらい in 善宗寺」を訪ねた。

「寺子屋みらい in 善宗寺」は、客殿を「教室」として、不登校や経済的理由など、生活環境や学習環境に課題のある小・中・高校生を5年前から受け入れている(写真)。学習面では高校卒業を目指し、お寺の活動の手伝いなどを通じた新たな学びや経験、出会いから、子どもたちが自己肯定感を高められるように、というのがねらいだ。

民生委員を約30年務めてきた同寺坊主・西垣けい子さん(71)は「国立や私立中学への進学率が7割という地域で、『子ども泣き声通報』がほかの区よりも多い。実際に調査に行くと、ほこもりの子どもが多い。経

済的な理由だけではなく場面にも多く遭遇してきた。何とか子どもたちのために学習支援活動を模索。その中で、「一般社団法人「子ども・若者心援団」の行う2つの学習支援「寺子屋」「TERAKOYA」が、会場を借りて開催していることを知った。その代表、ソーシャルワーカーの竹村睦子さん(64)と会った西垣坊主は「寺子屋という名前なら、ぜひお寺で」と迎え入れた。名称は「寺子屋みらい in 善宗寺」となり、2016年4月から活動が始まった。

塾長は、公立小学校で校長経験のある古澤昇さん(71)。地域の元教員6人が講師を務める。開催は週1回。現在は12人の子どもが登録する。コロナ禍以前は毎週金曜日の午前10時から午後8時半までだったが、午後2時から6時に短縮している。

竹村さんらが提唱するのは、子どもに合わせる「ちようこの支援体制」。指導方針は子どもと一緒に作る。その日に時間割を決め、英語や国語、数学などを個別に指導していく。中学で国語教師をしていた講師の松林陽子さん(64)は「どうする? やる?、みたいな感じで学習が始まる。そのゆるやかさが子どもたちにとっても、私たち大人にとってもほっとするところ」とほほえむ。大学生ボランティアも、子どもと本当の友だちのように結びつき、生活面は竹村さんらがケアをして、子どもの心の依りどころとなっている。現役の教師が見学に来るケースも増えているという。

通信制の高校に在籍する

子どものお寺を「教室」として開放

「寺子屋みらい in 善宗寺」は地域の人たちで運営されている。(左側から)主宰者のソーシャルワーカー・竹村睦子さんと古澤昇塾長。右は西垣義孝住職とけい子坊主



男子生徒(18)は「ここ以外の塾は知らないが、広いので勉強するのに集中しやすい。先生との勉強以外にも、友達や大学生とカードゲームをしたり、境内で遊ぶこともできる。2階の静かなところで自習することもできるし、いろんな人が通いやすいと思う」と説明してくれた。

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受けて、昨年4月からの半年間は断続的に休止した期間が多かった。ここでしびれを切らしたのは子どもたち。古澤塾長は「LINEで友達と繋がってはいるが、直接会わないと落ち着かないと、急ぎよ9月の途中から時間短縮で再開した」と語る。

◇

貸会場から善宗寺に会場を移したことで、子どもたちの雰囲気が一変したという。竹村さんは「貸会場は、その時間以外は全然関係のない場所になってしまいが、お寺はずっとそのままあり続ける。来られなくても、あり続けるところに所属することの心の安定感、ここに自分が居ていいんだという意識が継続する。気が

持ちの開放と場所の開放、両方保証されているのはとてもありがたい」と話す。子どもたちは、同寺や地域のイベントでボランティア活動も積極的に行う。毎年8月の「夏休み水遊び広場」(昨年と今年中止)などの同寺のイベントに、裏方として「寺子屋」の子どもたちが関わる。竹村さんは「子どもたちにとってお寺は大事な場所。だから手伝いをするのは当たり前感覚。また、何か役に立ちたいという思いがあるのでは」と子どもたちを見つめる。

西垣坊主は「お寺ですべてをするのではなく、みんなで協力し合うことが大切。子どもの心理面はソーシャルワーカーにお任せし、教師は門徒や地域のつながりで定年退職された方に声をかけることもできる。子どもたちがここで学んだことで、ここに、この場所にお寺があり、いつでも来ていいんだと感してくればと思う。地域の状況で取り組みも変わってくるが、子どものために活動する寺院が1カ寺でも増えてくれれば」と願う。

子どもたちの笑顔のために募金 送付先

團本山・重点プロジェクト推進室 ☎075(371)5181

【郵便振替】00940-8-282766 (加入者名)子どもたちの笑顔のために募金

※通信欄に寄付者の本願寺新報掲載の可否を明記。払込取扱票は「宗報」偶数月号に中綴じしています

【銀行振込】ゆうちょ銀行099店当座0282766